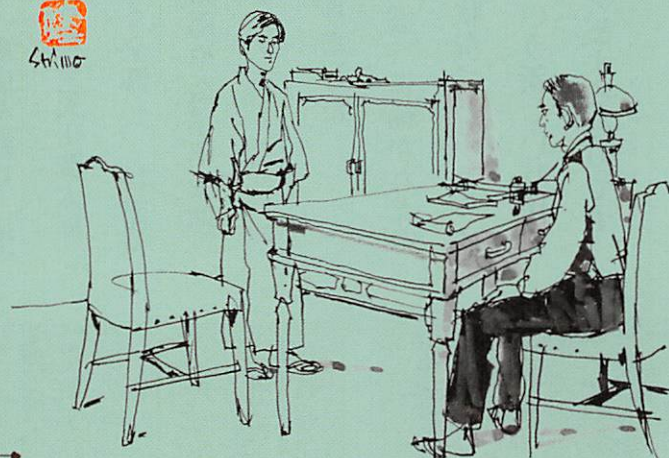


『坂の上の雲』のひとびと メッセージ



陸羯南之像

正岡子規
陸羯南



児玉も
乃木も

長州人
同士で

東郷平八郎
児玉源太郎

『東郷は運のいい男ですから』



金子堅太郎

小村寿太郎

小村寿太郎像



第14回企画展テーマ展示

2020年2月22日(土)ー2022年2月13日(日)

※ただし、2021年2月15日～2月23日までは休館

休館日：毎週月曜日(休日の場合は開館) 開館時間：午前9時-午後6時30分(入館は午後6時まで)

観覧料：一般400円(320円) 高校生200円(100円) 高齢者(65歳以上)200円(160円)

※中学生以下は無料 ※()内は20名以上の団体割引料金

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

ルーズベルトと
金子堅太郎



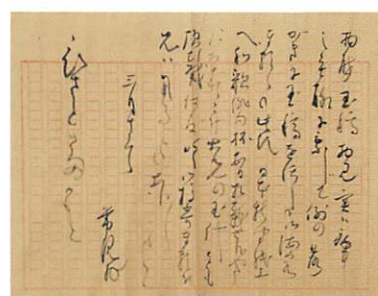
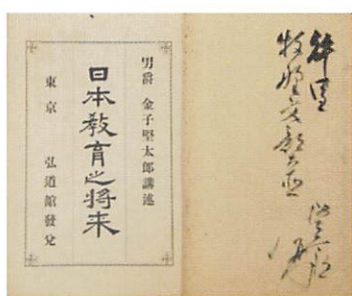
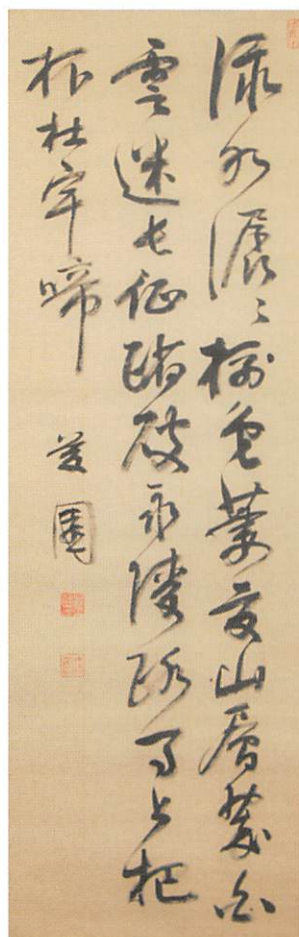
『坂の上の雲』のひとびと メッセー

明治維新によって近代国家として歩み始めた日本。この小さな国の新しい国民は、時代の高揚感の中で自らの信じる道を切り拓いていきました。

小説『坂の上の雲』には三人の主人公をはじめ、時代を懸命に生きた多くのひとびとが登場します。

政府批判も辞さない鋭い論説を展開しながら、限らないやさしきで子規を支え続けた陸羯南。日露戦争という巨大な試練に対し、知恵を絞り、決断力をもつて乗り越えた東郷平八郎や児玉源太郎。国家を背負って諸外国と粘り強く交渉し、日露戦争の講和を成し遂げた小村寿太郎や金子堅太郎。かれらは、言論、軍事、外交のトップランナーとして、新しい時代の担い手となりました。

今回の企画展では、『坂の上の雲』に描かれたひとびとが、それぞれの置かれた状況でどのようにふるまったかを紹介し、令和という新しい時代を歩み始めた現代人へのメッセーとするものです。



1. 菊池寿人あて正岡子規書簡〔明治26年〕3月13日（個人蔵）
2. 陸羯南の革製角型カバン（個人蔵）
3. 金子堅太郎自筆書入本『日本教育の将来』
4. 児玉源太郎漢詩
5. 東郷平八郎ほか第一艦隊首脳部集合写真（個人蔵）
6. 日露全權大使ハミ国ボーツマウスノ議場ニ於テ講和談判会議の光景
挿絵／原画：下高原健二（石川武美記念図書館蔵）

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UENO KUMO MUSEUM

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地 TEL 089-915-2600 FAX 089-915-3600
E-mail: saka-museum@city.matsuyama.ehime.jp URL: <https://www.sakanouenokumomuseum.jp/>

アクセス

- ・JR松山駅から〔所要時間約10分〕
- ・道後温泉から〔所要時間約10分〕
- ・松山空港から〔所要時間約30分〕
- ・松山観光港から〔所要時間約30分〕
- ・松山自動車道松山インターから〔所要時間約20分〕

- 市内電車（道後温泉行）—— 大街道下車—— 徒歩2分
- 市内電車（全線）—— 大街道下車—— 徒歩2分
- リムジンバス（道後温泉行）—— 一番町下車—— 徒歩2分
- リムジンバス（道後温泉行）—— 一番町下車—— 徒歩2分

